

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800030		
法人名	堀建設 株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩・中西		
所在地	島根県益田市市原町イ434-1		
自己評価作成日	令和3年1月6日	評価結果市町村受理日	令和3年5月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年3月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、新型コロナウイルスの影響もあり、3密を避け、地域やご家族様との交流も中々行えなかったですが、施設なりに感染対策を行い、職員間でアイデアを出し合い、少しでも行事参加出来るよう取り組んでいます。
又、ご家族様と担当職員でモニタリングを行い、意見交換をしケアマネージャーを交えご家族様の意向に沿ったケアプラン作成が出来る様、力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清掃職員を配置して心地よい環境整備を行っている。タブレット使用で、記録、保存、共有、活用が時短に結びつき、利用者に関わる時間が増え、一人ひとりの思いや希望に沿った支援に繋がっている。利用者が住み慣れた地域で普通の穏やかな生活を送れるように、玄関の鍵は常に開錠されている。利用者は自由に外に出ることが出来、一人になりたい利用者には見守りで支援している。コロナ禍での外出では、事前に情報収集をし三密を避け工夫した外出支援をしている。運営推進会議では「利用者に配慮した外出支援にありがとうございます」と感謝の言葉があった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼時に、施設の理念を読み、意識している。スタッフ全員が見られるようにホール2カ所に掲示してある。	ホール内に掲示し、朝礼時に唱和したり、スタッフ研修で取り上げ共有することに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で地域との交流は中々難しい。地区の文化祭などは人混みや人が多そうな時間を避けて参加している。	これまで敬老会には地域の人を招いたりボランティアの訪問、小学生、保育園児との交流を行っていたが、現在はコロナ禍にあり中止している。三密を避け地区の文化祭に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの影響もあり、3密を避ける為、地域との交流自体が難しかった。ご家族様より認知症についての相談などあれば対応させて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの影響で運営推進会議を中々行う事ができなかった為、書面を発送しての会議となった。その内容について意見などがあれば後日返送して頂いている。	書面会議を行い、ヒヤリハットや取り組みなどについて意見や助言を受けている。コロナ禍の中で感染防止に努めながらドライブや散歩などを支援していることについて感謝の意見があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルス感染対策としてマスクの配布等をして頂きました。不足物資等も相談に乗って頂き助かりました。運営推進会議も書面会議となりましたが、毎回ご意見を返送して下さり助言を頂きました。	運営推進会議録で情報を伝え、意見や助言を受けている。コロナ対策での情報提供や協力、食中毒予防の情報提供、施設の修繕工事の相談等を行い協力を得て取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回、身体拘束廃止検討会を行い、スタッフ研修で報告し話し合っている。	職員は「虐待防止チェックシート」を記入し日々のケアを振り返り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外に出る人には同行し、一人になりたい人には距離をとり、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待防止について研修を行っている。毎月1回接遇の反省も行き、ケアの振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修を行い、自立支援事業や成年後見制度について学んでいる。学んだ事を活用できるよう職員間で話し合いも行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前は面談を行い、不安や疑問点等聞かれた際に対応している。契約時は時間をかけゆくりと説明を行なっている。改定等の際には文章を配布し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を通じて報告し意見・要望を頂いている。今年度はコロナウイルスの影響により書面のみでの報告を行った。意見・要望があった際は職員に周知し改善・見直しに繋げている。	コロナ禍で家族会が中止になり、モニタリング時に電話で利用者の様子などを伝え、意見や要望を聞いている。家族の要望で体重測定を行うなど、意見は改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ研修を行っており、代表者や管理者、職員は参加している。意見や提案を聞き話し合いを行い反映に努めている。	何かあればその都度、職員が報告したり相談できる環境や雰囲気できており、話し合いながらサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者を優遇し、給与水準の向上を図っている。やりがいを持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内があれば各部署へ掲示している。研修を受けられる様、機会を確保し資格取得への配慮も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年他施設の職員と交流会や研修があったが、コロナウイルスにより今年度はほとんど中止になった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に利用者様の要望などを聞き、ゆっくり時間をかけて施設の雰囲気慣れて、安心して過ごして頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安な事、要望などを確認し、不安な事については具体的な支援内容等を踏まえながら説明を行なっている。安心して、信頼して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の情報収集を行い、必要としている支援について、管理者・ケアマネジャー・職員で協議し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人にあつた役割を見つけて共同生活を送られる様、支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様に確認し、必要な物をご家族様に持って来て頂いている。面会に制限がかかっている為、日々の様子や状況を詳しくお伝えしながら関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで利用者様が生活してきた地域や馴染みの方について話しを聞いたり、ドライブなどで馴染みの場所の近くを通った時、昔を思い出して頂き、地域の関係継続に努めている。	現在、面会は家族だけだが、自宅付近や馴染みの場所をドライブし関係継続に努めている。利用者から「昔、ここに、、、があった」等、過去の思い出を聞くことができる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が仲良くできるように同じテーブルに座って頂いたり、レクなど沢山の行事にも一緒に参加して頂き支えあえるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居により契約終了された方には転居先に出向き、その後の様子を伺いに行き、必要時は相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の要望・意向の把握に努め、困難な場合はご家族様に意向を確認しながら支援を行っている。	日々の会話や関わりの中で利用者の思いを把握し、医師や家族とも相談しながら希望が叶うように支援している。情報は職員間で共有しプランに反映させ支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や暮らし方、環境等の情報収集を行い、施設内での生活支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の様子等をスタッフ研修等で情報交換を行い共有して支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月末に介護計画やモニタリングを担当者がご家族様に連絡。面会が制限されている為、電話にて協議し、ケアプランを作成している。	利用者、家族の希望を聞き、医師と相談して支援方法を考えたり、家族の協力を得て利用者の思いに沿った支援が出来るようにプランを作成している。毎月モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はケアプランに沿って記録を行っている。課題があればその都度カンファレンスを行い対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウイルスの影響で外出、外泊が出来ない為、ご家族様に伝え、利用者様にも納得される様に声かけ支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度はコロナウイルスの為、保育園児との交流は出来なかったが、地区の文化祭には少人数で出掛けた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、主治医による往診があり、必要な時は主治医とご家族様と相談し、他の医療機関へ受診ができるよう支援している。	利用者、家族の希望のかかりつけ医を継続し定期的な往診がある。受診時は看護師より情報提供書を預かり、医師に提出し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活の様子や気付きは相談し、緊急時や変わり事があった時も看護師に相談し、ご家族様や医師にも相談しながら適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設での生活状況の情報を提供し、入院中の様子についての情報も提供していただき退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、ご家族様と看取りの意向を確認し、重度化や終末期に向けた意向を話し合い、事業所で出来る範囲の説明をし方針を共有し利用者様とご家族様の意見を尊重し一人一人支援している。体調に変化があった時は、ご家族様にその都度報告している。	事業所の方針を伝え、利用者、家族の意向を確認し、関係機関と連携して取り組んでいる。現在は利用者の全員が事業所での看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回、全職員が救命講習を受講している。AEDを設置し救急対応に備えている。地域の方も使用可能である事を働きかけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行なっている。毎回どうだったか反省したり、意見を出し合い振り返っている。	風水害、火災時の避難訓練や、救命講習を行っている。水害の避難訓練では避難場所や経路など再確認が出来た。「避難時に用意するもの」「備蓄品」リスト表を作成し、定期的に点検、確認をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、接遇のアンケートをとり、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応が出来るか振り返りを行い実践している。	入浴や排泄時には羞恥心やプライバシーに配慮した対応を行い、言葉かけや対応で気になることがあればスタッフ研修などで話し合い対策を考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で利用者様の思いや希望を聞き出せるよう努めている。日常生活の関わりの中で思いに添った自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活パターンに応じて、柔軟な支援を実践している。本人の希望もきくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみが整えられるよう、洗面台近くにブラシ・髭剃り・化粧水など置いて使ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日献立を読んで頂き、合せて料理の説明も行っている。出来る方にはテーブル拭き、食器洗い等を職員と一緒にしている。手作りおやつも希望を聞き、一緒に作っている。	毎日献立を読んでもらい食への楽しみに繋がるようにしたり、季節料理や弁当の日、誕生月にはケーキやおやつと一緒に作るなど楽しめるようにしている。利用者は自分の出来ることをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量、間食など、タブレットで管理し健康状態に気を付けている。嚥下咀嚼状態に応じた食事形態に変更し、個別に対応した口腔環境・食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態に応じた口腔ケアを行っている。眠前には義歯の消毒・管理の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンを職員内で共有し、個々の能力や状態に応じた排泄介助に努めている。出来るだけトイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄状況を職員間で共有し支援している。声を掛け支援する中で自発的な行動や発語が見られるようになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排便表により排便状況を確認している。また、毎日のリハビリ体操や散歩をし、予防に努めている。便秘傾向の入居者様には、水分量や食事摂取に注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望、その日の気分やタイミングに応じ支援を行っている。脱衣場や浴槽内の温度も適温に調整し、入浴しやすい環境にし楽しんで頂いている。	回数や同性介助など、希望に応じた支援をしている。使い慣れた洗顔フォームを使っている人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の換気、寝具の洗濯や干しを定期的に行ない環境整備に努めている。日中いつでも居室・ホールで自由に休息をとられる様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬文献綴りにより、各入居者様がどんな薬を処方されているか職員全員が知る事が出来る。服薬の変更及び臨時薬が処方された場合は、看護師より報告・指示があり、職員間でも情報共有が出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を理解し、それぞれに合った出来る事を見つけ支援している。施設内行事、レクリエーションの参加を促したり、ドライブ等で気分転換し、楽しんで頂けるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気・気温に応じて、散歩や日光浴を楽しんで頂いている。戸外への外出では、密を避けながら、出来る時は地域の小規模イベントに参加したりし、楽しんで頂ける様、支援している。	コロナ禍で外出先も制限されているが、人混みを避け、時間帯や場所を考えて支援している。散歩やドライブ、外での昼食会、市内のイルミネーション巡り等に出かけ、利用者からは「キレイ、キレイ」と喜んで貰った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、ほとんどの入居者様はお金を所持されていない。ご家族様より要望があれば所持は可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日などに、ご家族様からプレゼントなどが届いた時に、職員が電話を掛け利用者様とお話して頂いている。入居者様よりご家族様へ電話を掛けてと要望があれば電話し会話を楽しんで頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには飾りや壁画ねどに季節感を取り入れている。ホール・居室内の温度調節も適度に行っている。又、清掃職員を配置し、施設内が清潔で心地よく過ごせるよう、取り組んでいる。	ホールには季節の花や雛飾り、利用者の作品、季節ごとに手作りの壁画を利用者と一緒に飾りつけている。利用者の様子を見て、ソファやテレビ、テーブル等の位置を変えて心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの席は気の合う方を隣同士にするなどし、話ができる様に工夫している。一人でゆっくり過ごされたい方には、ソファや畳などで自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、ご家族様より生活の様子を聞き、普段の生活に近づく様、家具の配置など工夫している。又、居心地の良さだけでなく、安全面にも気を付け家具など配置している。	テレビや家具、使い慣れた日用品など持参して貰い、塗り絵や読書を楽しんだり、好きなテレビ番組を見て居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、部屋がわかるよう表札や飾りを付けている。可能な方には自身の洗濯物を居室まで持って帰ってもらい、ご本人で整理出来る様、筆筒にはシールを貼り自立へ向けた工夫をしている。		